



第4回「イーストキャンプ」開催！ 改めて震災を意識付け、仲間との絆を深め合う！

10月26～27日、宮城県東松島市野蒜（のびる）地区・KIBOTCHA（キボッチャ）において第4回「イーストキャンプ」が開催された。同キャンプは組合員相互の交流を通して紐帯をより太くする事を目的に毎年開催されており、今回はJR連合より中山組織部長、JR東海ユニオンからは、本部渡邊交渉部長と新幹線地本中森副委員長にもご参加いただき、総勢21名が、秋も深まりつつある松島の地に参集した。

「キボッチャ」は、希望・防災・未来というコンセプトの施設。宿泊メニューの1つである防災訓練では、東日本大震災で実際に津波を目の当たりにした体験談や、「おさとう山」（自費で作製した高台の避難所）で命が助かったことを説明いただいた。キボッチャの前身である「野蒜小学校」の震災当時の黒板や校庭の止まった時計など当時の学校内施設物品展示を見学し、改めて震災の凄まじさに圧倒された。また、今後の津波に備えて相手を助ける場合に使えるロープの素早い結び方、心臓マッサージ、匍匐（ほふく）前進を体験し、防災への考えや具体的な行動を共有することができた。



野外散策では、当地で震災の語り部をされているJR東日本OBの飯坂さまがナビゲーターとなり、野蒜地区を徒歩で散策した。昔は「野蒜岩」の碎石が盛んだったこと、野蒜という地名は野草の「ノビル」が豊富に採れたことが由縁であることなど歴史を紐解いて説明いただいた。震災復興伝承館（旧野蒜駅跡）では震災遺品の展示や映像を見学し、震災の状況を振り返った。震災遺品には旧野蒜駅で使われていた券売機もあった。あらためて、命の大切さ、備えることの大切さを学ぶことができた。

夕食のBBQでは、「きき〇〇ゲーム！」や「ビンゴゲーム！」といった余興に、集まった仲間たちの熱戦が繰り広げられ、大盛況のうちにより絆を深め合うこともできた。

令和最初のイーストキャンプは、震災を忘れず、防災意識を常に持つこと、また、地域社会との連携・ボランティア活動の大切さなども併せて、多くを学び、成功裡に終えることができた。



希望・防災・未来！ 私たちの明日の運動に繋げていこう！